

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
 ☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第600号 2019年10月13日

イグナチオ・ロヨラ飯野雅彦師の 追悼ミサと納骨式

8月24日(土)11時からイグナチオ・ロヨラ飯野雅彦師の追悼ミサと納骨式が山手教会で行われ、多くの信徒が参列しました。ミサは教会ホールで行われ、梅村司教主司式で多くの司祭団とともにミサがささげられました。先唱は横浜教区事務局長・保久要師、侍者の中には飯野師の勧めにより神学院入学を決意された水上健次神学生もいました。

梅村司教は説教の中で、「これまで飯野神父様に支えられて司教職を過ごして来ましたが、学生時代からお世話になりましたが、司教になってからも唯一お小遣いをくださったのは飯野神父様でした。このようなことを説教台から言うと、飯野神父様は、その都度、『はしたない!』と、しかってくださいました」と話されました。また、葬儀および本日のミサで配布された裏面に略歴が掲載されている飯野師の遺影のカードをかざしながら、「荒井司教様、濱尾枢機卿様、そして、わたくしと、3代の教区長・教区司教に仕え、教区のために、すべてをささげて使命を立派に果たしてくださいました。ここに記されている赴任先だけではなく、教区の様々な委員会などの長も務めてきてくださり、10年を超えての横浜教区事務局長時代には、ずっと一粒会の総指導司祭を務めてくださり、さらに、子どもたちの召命のために召命錬成会の責任者として活躍してくださいました。一粒会の基礎が十分築かれたのも飯野師の時代

だったのかもしれませんが。それが今、受け継がれて、16ある教区の中で一番召命が多い教区とされています。また、特に感謝するのは、わたしになってから韓国のウイジョンブの教区と関係ができて、ウイジョンブから司祭が送られるたびに引き受けてくださっていました。その方々は立派に成長し、主任司祭として横浜教区のために働いてくださっています。このように人材の養成にも力を貸してくださいました。飯野神父様は、自ら体を動かして奉仕する大切さを示してくださいました」と話されました。

ミサ後に、聖職者の方々が眠る山手の墓地で梅村司教司式による納骨式が執り行われ、強烈な太陽が照り付ける中でしたが、大勢の信徒が参列しました。

献花では、横浜教区副事務局長・谷脇慎太郎師の先唱による聖歌が長時間にわたりささげられましたが、納骨式が終わったあとは多くのツクツクボウシが飯野師との別れを惜しむかのように、いつまでも鳴いていました。



梅村司教主司式のミサ